

導 入 事 例

ネットワークブート方式シンクライアントシステム

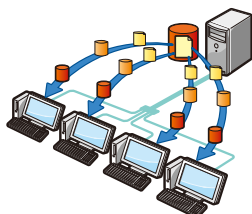
ファンタシー
PhANTOSYS

PC教室空席情報表示システム

PC Room Watcher



学校法人 福岡女学院
メディア情報課 課長補佐
田代 勢 氏



学校法人 福岡女学院
メディア情報課
森 貴志 氏

学校法人 福岡女学院

〒811-1313
福岡県福岡市南区日佐3丁目42-1
TEL.092-581-1492

ホームページ
<http://www.fukujo.ac.jp/>

学校法人 福岡女学院

短時間に授業用ソフト切り替え可能とする 「Phantosys」

学校法人福岡女学院では、大学の授業および自習室で利用するパソコンにシンクライアントシステム「Phantosys」を導入しました。授業では様々なソフトを利用することが多いため、短時間に利用ソフトの切り替えを行う必要があります。また、就職に必要な資格試験の勉強などを目的とした自習を行う学生も多く、円滑な学習をバックエンドから支えるメディア情報課のスタッフが最適な環境を提供するシステムを検討した結果、Phantosys導入を決定したのです。



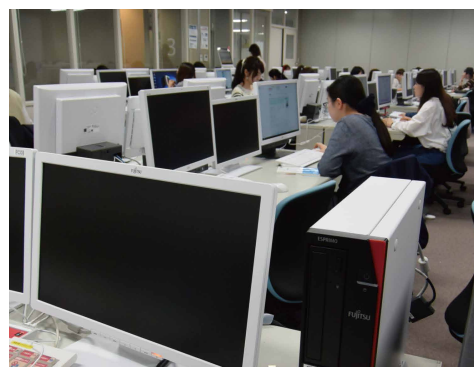
伝統に甘んじず改革にも積極的に取り組む

福岡女学院は、明治18年に創立され、設立から132年目を迎える歴史をもった学校法人です。キリスト教を基盤とする人間教育、女子教育を重んじ、大正10年に中学生、高校生向けにセーラー服を制服として導入した学校としても知られています。

現在は幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学、看護大学を擁し、多くの人財を輩出してきました。十時忠秀理事長の「創立当初の建学の精神に立ち、守るべきものを守り、改革すべきものは改革しながら、社会の期待に応える」という方針のもと、積極的に改革に取り組んできました。

パソコンを使った教育にも積極的に取り組み、全学部・学科で、IT教育を授業に取り入れています。現在ではパソコンルーム4室、CALL教室の名称がついている語学教育ルームが4室、メディアデザインラボ1室と計9教室にパソコンが導入されています。「授業ごとに利用するOS、ソフトのバージョンが異なるため、管理を担当する我々は短時間にOS、ソフトを切り替えなければなりません」とメディア情報課 課長補佐・田代勢氏は利用状況を述べています。

「Phantosysを導入した2016年は、MOS(Microsoft Office Specialist)などの資格取得用のWindowsのバージョン、Officeのバージョンの切り替え時期だったため、授業で利用しているバージョン、資格試験用バージョンの両方を使える環境を用意しなければならませんでした。授業で利用するバージョン、資格試験を勉強する学生向けのバージョンと、要望に応じて、簡単に利用するWindows、Officeのバージョンを、授業が開始する前の休み時間中に行うといった作業が必要になります。授業で利用するソフトは他にもあり、休み時間中にソフトを切り替えています」福岡女学院では授業でパソコンを利用するだけでなく、パソコンが空いている時間には学生の自習用にパソコンが利用できるようになっています。田代氏と、同じくメディア情報課のスタッフである森貴志氏は学生が最適な環境でパソコンを利用できるよう管理業務を担当しています。「2016年にシステム刷新を行いました、その際にはPhantosysだけでなく、VDIも含めたシンクライアント、ファットクライアントの提案も受けました。その中で我々が選択したのはPhantosysでした。ネットワークブート方式を採用していることから、語学教室で利用する音声、動画を利用した負荷の高いアプリケーションも問題なく動作する点、イメージ管理機能が複数OSに対応している点が当校の利用状況に適しています。実際に導入すると、起ち上がり容易で、シンプルで使いやすいと判断したからです。実際に導入してみると、短時間のソフト、OSの切り替えを短時間に行うことができます。3人体制で作業を行っているメディア情報課の我々にとっては有り難い製品です」と田代氏はPhantosysを高く評価しています。



■ 夏休みの短期間に一気に導入

実際の導入作業は、2016年の8月、大学の夏休み期間中に行われました。「導入作業を夏休みに行ったのは、授業に影響を与えないためです。夏休み期間は、授業はありませんが、学生が登校して自主的にパソコンを利用していることもありますので、それを妨げないよう作業を行っていきました」(田代氏)

メディア情報課の森貴志氏は、8月の導入を経験しました。この時のことを振り返ると、「色々なことを一気に進めて行ったので、とにかく忙しかったという感じが覚えています。あらためて振り返ってこんなことがあったと言えないくらい、作業に追われました」と述べています。実作業には協力会社の力も借りて作業が進められていきました。

「夏休みの間、自習ルームをオープンに利用できるようにしていたことから、オープンに利用できるパソコンを残しつつ、入れ替え作業を行うよう、日程を二段階に設定し、作業を進めました」(田代氏)

これだけタイトな日程で作業を進めることになったために、導入時にトラブルがあれば大きな問題になりましたが、「大きなトラブルがなかったことで、タイトな日程の中、導入作業を完了させることができました」と田代氏は導入作業の時の振り返ります。

■ 前回の導入断念から一転して高い大学導入実績から採用を決定

実は福岡女学院がPhantosys導入を検討したのは初めてではなかったそうです。「5年前、2011年のシステム切り替え時にも、導入を検討したことがあります。その時から機能には魅力を感じていましたが、導入には至りませんでした」と田代氏は振り返ります。

では、何故導入に至らなかったのでしょうか。田代氏によれば、「2011年時点では事例がほとんどありませんでした。そのため本当に示された通りのスペックが導入後も出るのが不安だったのです。それから5年経過し、大学への導入実績が急増しているといひ、今回は導入を決定しました」という背景があったそうです。

実際の導入後、「2017年度に入ってから、全教室のWindowsマシンは、Windows 7からWindows 10にアップグレードしました。OfficeもOffice 2016に統一しましたが、そのための作業も非常にスムーズに進みました」Phantosys導入効果はこんなところにも出ているそうです。

■ 学生の利便性考え「PC Room Watcher」開発に協力

メディア情報課の姿勢は、「パソコンを利用する学生の利便性を妨げない」ことを徹底しています。時間的にはタイトながら、Phantosys導入時期を授業がない夏休みとしたこと、しかもオープンスペースとしてパソコンを利用できる環境を残しながら導入作業を進めたことは、まさにその現れです。

校内に表示しているデジタルサイネージ「PC Room Watcher」です。このソフトは、PC教室でどのPCが空いているのかを校内に設けられたデジタルサイネージ、登録されているWebサイト、スマートフォンから確認することができるソフトウェアです。

Phantosys同様、ワッセイ・ソフトウェア・テクノロジーから販売されていますが、福岡女学院では校内での利用を視野に、「こんな機能が欲しい」というリクエストをあげ、その声が反映されています。「大学での授業はパソコンルーム全てを使わないものもあります。教室を間仕切りし、使われていないパソコンについては自習用として開放する。開放したパソコンのうち、何台が使われているのか、このソフトを利用することで、一目で把握することができるようになるのです」(田代氏)

例えば授業で利用されている教室の中で自習に利用できるパソコンがあることをどう表現するのか、福岡女学院側と協議し開発が行われました。

また、福岡女学院では、大学、短期大学が同じPC教室を利用しています。大学の授業時間は90分、短期大学は60分ですが、この隙間時間に空いているパソコンをどう表示するのかも難しい課題でしたが、「出来上がった機能に満足しています」と田代氏は話しています。

「もう一つこだわったのは、表示の背景の壁紙部分です。校内のスタッフからの提案によって、季節ごとに背景を変更することができます。春には桜を思わせる桜色の壁紙で、クリスマス時期にはクリスマスモードで。学生に楽しみながら使ってもらえる仕様となっていると思います」(田代氏)

■ セキュリティへの配慮から事務部門にも導入決定

校内のIT部門の役割を担っているメディア情報課は、2016年度から本部付きとなり、校内のトータルなITを管理する役割となりました。

「大学だけでなく、幼稚園、中学校、高校、看護大学まで含めたトータルなITを管理する役割を担うことになりました。しかし、メディア情報課のスタッフは昨年度の4人体制から1人減って3人体制となりました。授業のサポートなどヘルプデスク的な役割を担っている情報教育センターのスタッフと共に、大学の教室運営は行っています。大学以外に関しては、まさにITの力を借りて、効率のよい運用管理体制が必要になります」(田代氏)

事務部門については、学生の個人情報など外部漏えいさせることができないデータを多く扱っていることから、セキュリティを強化することが目的でPhantosys導入を決定しました。

「まず、本部、大学の事務部門に導入しました。これまで事務部門のIT資産の管理はバラバラに行ってきたのですが、統一した管理体制とすることで、利用しているソフトをきちんと把握し、セキュリティアップデートをきちんと行っているのかなど、データ管理体制も強化していく方針です。教室への導入は管理負荷削減でしたが、事務部門ではセキュリティ強化を狙いにPhantosysを導入しました」(田代氏)

他の学校とは離れた場所にある看護大学の教室、事務部門での適用も検討しており、できるだけ人手をかけずに、管理体制は強化していくことを計画しています。

